

東福岡学園東福岡高等学校

自彊館コース 藤本玲也

高校生ボランティア・アワード2024

「日本人高校生によるインドネシア職業訓練校での日本語教育ボランティア」

活動概要

【背景】日本語教育は、日本製品の海外輸出にともない注目されるようになり、2000年以降はインドネシア国内で日本語教育が普及し始めた¹⁾。その後、ポップカルチャーの影響、そしてグローバル社会を生き抜くために英語以外にも複数の外国語能力が求められるようになり、非漢字圏でありながらインドネシアでは日本語熱が高い。新型コロナウイルス感染症パンデミック前の2018年、日本語を学ぶ人は約385万人で²⁾、そのうちインドネシア人は約71万人と、中国に次いで二番目に多く³⁾、インドネシアにおける日本語教育は、グローバル社会における国際人材養成の一端として位置づけられている⁴⁾。在留インドネシア人の多くは技能実習生および特定技能外国人（以下「特定技能」という）であり、母国の訓練学校で日本語を習得している。

日本では近年、流暢な日本語を駆使して接客を行うアジア系外国人が増えている。日本で働く外国人労働者のコミュニケーション能力にばらつきが無いわけではないが、このように現地の言葉を流暢に駆使して働くことは、今の私にとってはほとんど不可能にすら思える。私は外国出征児童への課外授業ボランティアを行っている（写真1）が、そこで彼らが人間関係において最も重要なコミュニケーションツールである日本語をどのように習得し、日本語を美しく話す⁴⁾までに、母国においてどのような教育機会が提供されているのか自身の目で確認したいと思うようになった。今回、UCHIYAMA GROUPの傘下にあるインドネシア国の職業訓練校 SAWAYAKA FIJINDO INDONESIAを紹介していただき、現地にて日本語教育ボランティアに携わることができた。普段、習っているインドネシア人日本語教師を、職業訓練校の学生より年下の高校生がサポートすることで、どのような効果があったか、ここに報告する。なお、この取り組みはSAWAYAKA FUJINDO INDONESIAおよび私が所属する高校の許可を得て行った。

【方法】2023年7月24日から8月4日の間、インドネシア国ジャカルタ首都特別州の職業訓練校で日本人高校生が日本語授業の補助ボランティアを行った。授業参加の背景情報を収集し、日本語教員資格を有しないボランティアから日本語を教わることに對する彼らの不安がどのように変化したかについてアンケート調査を行った。アンケートは無記名とし、日本人高校生から日本語を習うことに對する不安感を4段階の選択肢から選んでもらい、得られたデータを用い統計学的処理を行い、彼らの不安がどのように変化したかを検証した。インドネシア語での自由記載自由記載の結果は、外国語教育で日本語を学ぶ学生を対象に行われてきた研究において、動機づけに影響を与える要因を因子分析した結果から5つに分類し¹⁾、いずれにも分類されない回答は、その他に分類した。

「ボランティアを科学する志」

活動の目的

日本に住む私たちの側からみて、就労目的で来日する外国人労働者の母国での日本語教育の全体像は十分に把握できていない。そこで、彼らと年齢に近い日本人高校生（私）が、現地の日本語教育を直接視察し、さらに、日本語授業の補助ボランティアを試みることで職業訓練校の学生の不安とその変化に影響をあたえるのか調査した。

- ①日本で働く外国人労働者が母国で受けている日本語教育の詳細について、必ずしも日本では十分に把握されていないため、インドネシアの事例に焦点を当て、その点を明らかにする。
- ②日本人高校生が日本語授業をサポートすることで、どのような効果があるのか、アンケートによる統計学的手法を用いて明らかにする。

2022年3月 沖縄県瀬底島 軽石除去ボランティア

2022年4月～現在 外国出生児童への課外授業講師ボランティア(福岡YMCA)



地域で行われている多国籍の児童へ日本の勉強を補習する教室への参加を開始した。彼らの中にはウクライナから逃れてきた子供も在籍していることでもあった。メディアが伝える遠い国の戦争影響を具体的に感じ、私も世界平和へ貢献したとの思いが強くなった。

授業の様子

受け持った生徒たちと共に



「日本で働く予定の外国人の心の不安に寄り添う持続的・発展的なボランティア活動」

活動の詳細(実施内容)

このボランティアを成功させるための準備

1) 介護施設で働く卒業生へのヒアリング



事前に彼らのことを少しでも理解しておくために、今回訪問する学校を卒業し、すでに日本で介護士として就労している技能実習生の職場を見学し、彼らへヒアリングを行った。彼らが日本に来る前に持っていた日本のイメージは富士山、東京タワー、そしてインドネシア人日本語学科学生が日本語を学ぶ最大のモチベーションである漫画やアニメ³⁾、フィギュアであった。そこで私は、現地の職業訓練校の学生たちに、日本語学習者の熱意を向上させる最新の日本の大衆文化作品⁵⁾を伝えることで、日本へ行くことの期待が高まり、同時に日本語を学ぶモチベーションが高まるように、現地で最新の漫画やアニメを伝えることとした。また、折り紙やけん玉などの日本文化も準備した。

2023年6月 老人ホームさわやか立花館にて

2) 日本語教員資格講習受講

今回、日本語教員資格を持たない私がボランティアを行うことに對する彼らの不安を少しでも理解する目的で、2024年4月から国家資格となった日本語教員資格⁶⁾講習の受講を2023年4月より開始した。

結果

現地で行われていた日本語教育
現地では日本語のテキストを扱っており、朗読や会話が中心の授業であった。例えば、二人の人が会話している絵が提示され、どんな会話をしているのか想像し、グループで議論を行い、発表する授業であった。なお、記述はひらがなよりも漢字が主体であった。

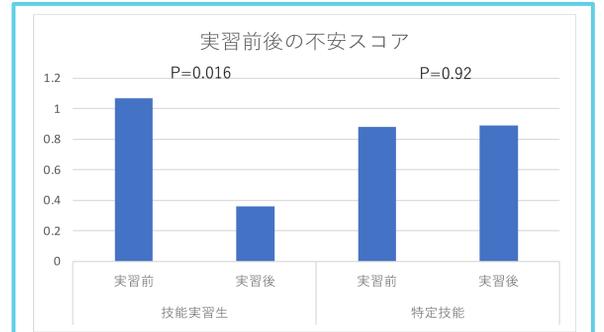
表1 対象者の背景

	人数	9	14
男女比	男性8女性1	女性14	
平均年齢	23.5±4.4	18.9±1.4	
在留資格	特定技能	技能実習生	
日本で予定される職業	農業	ホテル清掃業	
日本語検定保有率	100.0%	0%	

授業に参加した生徒は特定技能外国人として農業従事予定の9名と技能実習生としてホテル清掃業に従事予定の14名で、後者は全員女性であった。平均年齢は前者が23.5歳、後者が18.9歳で、日本語教員資格を持たない高校生である私から日本語を習うことは全く心配でない、と全体の1/3が回答した。

アンケート内容

質問1 あなたの性別は？
質問2 あなたの年齢は？
質問3 好きなマンガは？
質問4 日本語検定を持っていますか？
質問5 日本へ行ってからのあなたの仕事は？
質問6 15歳の日本人男子高校生から日本語を習うことについて、一つ選んでください。
①とても心配 ②少し心配 ③あまり心配でない
④全く心配ではない
質問7 私にして欲しいことの優先順位をつけて下さい
() 日本語を上手に教えること
() 気軽に相談できること
() 日本の若者文化情報を知ること



私から日本語を習うことに関する不安を4段階に分けた設問では、実習開始時と終了時それぞれの回答結果について「全く心配でない」を0点、「あまり心配でない」を1点、「少し心配」を2点、「とても心配」を3点とし、得られたデータについてMicrosoft Excelを用いて、Willcoxonの符号(付)順位(和)検定を行ったところ、技能実習生クラスの学生ではボランティア終了後の不安スコアが有意に改善し、特定技能クラスの学生では有意な変化を認めなかった。

表2【自由記載の内容】

日本人・日本文化理解	交流相手	通訳的思考	語学学習思考	その他
日本人・日本文化理解 ・人々のゲームは？ ・日本の大学生になれたら？ ・日本の作り方を学びたい ・授業中の声かけを知りたい ・日本文化と生活の習慣を知る ・日本のことを知りたい	交流相手 ・移動の遅いので楽しみ ・教員が丁寧で優しい ・日本の若者と話すのが嬉しい ・日本の高校生と交流できる ・インドネシアの文化も教える ・日本語を上手に教えること ・気軽に相談できること ・日本の若者文化情報を知ること	通訳的思考 ・日本語を教えるのが楽しい ・日本の若者と話すのが嬉しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい	語学学習思考 ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい	その他 ・技能実習生が得たから日本へ来たい ・季節を知りたい ・季節を知りたい ・日本の物事の言い回しは？ ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい ・日本語を教えるのが楽しい

「夢は持続可能なボランティアによる日尼の架け橋」

今後の展望

私がボランティアを行ったインドネシア職業訓練校の学生は日本語学習の意識が総じて非常に高かったと感じた。「動機づけ」は個人差要因の一つであり、学習者の属性や環境によって結果も異なる可能性があると言われて⁷⁾いる。職業訓練校の学生は、元来、日本で就労するという外的な要因によって学習している状態であるが、今回、私が授業の補助を行ったことで、私という日本人高校生が最新の若者文化を伝えるという独自性を提供したことになる。今回の分析結果から、それが彼らの動機づけをintrinsic motivationへと発展させるという彼らの動機づけ変化に關与した可能性がある。また、「(自分たちと)同世代のため、気軽に質問しやすい」と言われ、差別や宗教への理解、漢字をどれくらい使うのかといった不安を打ち明けられた。彼らにとって私が話しやすい存在であったことでかれらの本心を引き出した可能性があり、彼らの不安を少しでも和らげることができたのではないだろうか。

今回行ったようなサポートが現地の日本語学習者に刺激を与え、学習熱意の維持・向上にも繋がるのならば、インドネシアの日本語学習者と、日本語を母語とし、彼らと年齢に近い高校生などを短期間WEBでつなぐシステムを提案したい。そうすれば、物理的に現地に滞在しなくても、少なくとも言語コミュニケーションは可能であるため、より少ない費用でより多くの協力者が得られると見込める。さらに今後は、このようなサポートの有無が日本語検定合格率の向上につながるのか、科学的検証を行うことで有効性の評価もできるものと考えている。

参考文献

- 山下順子, 日本語学習における動機づけ尺度の開発, 広島大学大学院人間社会科学部研究紀要「教育学研究」第1号 p531-529 2020.
- 国際交流基金, 海外における日本語教育に関する調査報告書2015 東京2017
- 国際交流基金, 海外における日本語教育に関する調査報告書2018 東京2020
- 高橋こうじ著, 日本の大和言葉を美しく話す, 東京: 東邦出版株式会社, 2014年12月5日
- Djafri F and Wahidati L. Study in Japan and the Motivation of Japanese Language Learners in Higher Educational Institutions in Indonesia. IZUMI Vo.9, No2, p112-120. 2020.
- 文化庁, 日本語教育 日本語教育の適正かつ確実な実施を図るための日本語教育機関の認定等に関する法律について
- Deci EL and Ryan RM. Self-Determination. Handbook of Theories of Social Psychology, Volume 1, Edited by Paul AM Van Lange, Arie W Kruglanski and E Tory Higgins. 2002

謝辞

今回、僕がインドネシアにボランティアに行けるように支えてくれた全ての方に感謝します。現地で支えてくれた片桐さん、広い心で温かいお言葉をかけてくれた現地の田中校長先生、このボランティアを心から応援してくれた担任の今井先生、日本での準備段階からサポートしてくれたさわやか倶楽部の原野さん、金森さん、本当にありがとうございます。小さいころから支えてくれている保護者や先生方に心から感謝します。

本発表は第64回日本社会医学学会(2023年7月早稲田大学) 大学生・高校生ポスター発表ヤングリサーチ部門奨励賞を受賞した内容に追記したものであり、社会医学雑誌第41巻2号へ掲載予定(筆頭著者藤本玲也)です。